

## 平成26年度第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

### 1 日時及び場所

平成26年5月30日（金）  
近畿中国森林管理局4階第3会議室

### 2 議題

- (1) 近畿中国局管内の需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

今年4月からの消費税率引上げを前にした駆け込み需要で、一時原木の価格が高騰し、住宅着工戸数も増えた。

増税後はこの反動により原木はヒノキ価格が下落、スギも横ばいで推移しているが先行きは弱い傾向、また住宅着工戸数も減少に転じ、現在は、全体的に落ち着きつつある。

国有林材の供給調整の必要性は認められないが、引き続き市場動向を注視していく必要がある。

#### 〈主な情報、意見について〉

##### ○国産材の供給及び価格の動向について

- ・特にヒノキについては、価格が今から一年前の水準まで戻り、一段落している。
- ・増税後の反動がどこまで影響を及ぼすのか、心配される。
- ・国産材の需要構造が変化しており、（大規模工場等では量が確保できず）一部輸入材への回帰も見られる。

##### ○素材生産の動向及び今後の方向について

- ・川上・川下の密な情報交換や協議打ち合わせにより、国産材の安定供給を図ることが重要である。
- ・国産材の供給拡大に向けて、皆伐による循環型の林業へ持って行くためには、まずは苗木の確保が必要である。

##### ○その他

- ・バイオマス発電の本格稼働等新規需要分野が拡大しており、既存の用途は素材を確保できなくなるおそれがある。
- ・木材供給に係る近畿中国森林管理局の国有林材のシェアは限られているが、当局は管内の木材供給等について引き続きしっかりとしたメッセージを出して行く必要がある。